

伝わる英語を発信するための 文法力

法政大学 飯野 厚



英語の基礎力とは

教育現場から「コミュニケーション以前に基礎力が足りない」、「生徒に基礎力を付ける必要がある」といった声をよく耳にします。さて、英語の基礎力とはどのような力なのでしょう。いろいろな定義があると思いますが、私は「音声・単語・文法の3領域における知識を、聞く・読む・書く・話すという4技能で運用できる力」と定義できるのではないかと思います。

この定義に照らしてみると、MY WAY English Communicationシリーズは基礎力をまんべんなく網羅して学習できるようにしています。ただし、現在の高校現場の現実とニーズを加味し、語彙、文法、リーディングに重みを付けて編集しています。それは、『MY WAY English Communication I・II・III』（以下、『MY WAY I・II・III』）の最終的な到達目標を、センター入試レベルの英文が一定の理解度と速度で読めるようになること、しているからです。語彙については、シリーズ全体で中学校既習扱いの語も含めて3,000語を網羅できるようにしています。

そこで、本稿では、MY WAY English Communicationシリーズが最も重視している基礎力として「文法」の扱いに焦点をあてます。

1. 学習指導要領における文法の扱い

現行学習指導要領では、指導すべき文法項目が以下の8つに大綱化されました。具体的には、「不定詞」「関係代名詞」「関係副詞」「助動詞」「it が名詞用法の句・節を指すもの」「動詞の時制」「仮定法」「分詞構文」です。文型については、「文構造のうち、運用度の高いもの」という文言のみとなっています。そしてまたこれらの文法事項は、「コミュニケーション英語I」において、言語活動と効果的に関連

付けてすべて指導すること、とされています。この点については、先述の基礎力の定義にかかった内容と言えます。文法の知識を有するだけでなく、それを4技能に応用できるように指導することが求められています。

2. 品詞の認識—中高の橋渡しとして

高校生が文法の学習においてつまずくポイントとして、品詞の認識が挙げられます。中学校では、専門的な文法用語をあまり使わないで指導する傾向がある一方、高校では文構造の説明には品詞名を使うことが一般的です。高校1年生でのつまずきを防ぐために、『MY WAY I』の巻頭にStarterとして以下のような内容を置きました。①「文を作る品詞のいろいろ」（単語例と品詞名の意味的定義）、②「文の中心となる動詞」（自動詞と他動詞の区別）、③「語の順序と文型」、④「文の中のまとまり—句と節」です。可能な限り長い説明は避け、語句や文の例を多用して表などでビジュアルに提示しています。

なお、ここは本レッスンではありませんので、まずは①の品詞について触れる程度で扱ってもらえると良いと考えています。②以降は、本課の指導を進めながら、適宜参照するような使い方をお勧めします。

3. スパイラル式に文法知識の深化を図る

文法学習の理想は、英語をコミュニケーションの場面で使いながら習得することです。しかし、学校の1科目として英語を学ぶ日本人学習者にとって、口頭によるコミュニケーションのために英語を使うチャンスはきわめて少ないのが現実です。従って、「使いながら学ぶ」という際の「使う」場面はリーディングによってメッセージを受け取るコミュニケーションが主となります。

『MY WAY』では文法事項をスパイラル式で理解して深化させられるように、文法の配列を組み立てました。具体的には中学校の文法事項の復習、『I』、『II』と3段階で、文型および8つの文法項目を扱っています(表参照)。

課	MY WAY I	課	MY WAY II
1	SV / SV ₀ / SVC / SV ₀ O ₂	1	SVC, SV ₀ / SVO (O=if節) / SVC (C=過去分詞)
2	SVOC / SVO (O=that節) / 比較級・最上級	2	SV ₀ O ₂ (O ₂ =if節, that節, what節) / it seems that ~
3	現在進行形 / 現在完了形 / 過去完了形	3	It is ... to不定詞 / It is ... that ~ / 形式目的語
4	助動詞 / 受け身 / 助動詞のついた受け身	4	SVOC(C=動詞の原形, 過去分詞) / SVO + (to)不定詞
5	動名詞 / to不定詞 / It is ~ to不定詞	5	関係代名詞 / 前置詞 + 関係代名詞 / 関係代名詞・関係副詞の非制限用法
6	関係代名詞 / SV ₀ O ₂ (O ₂ =how to ~)	6	現在完了形 / 現在完了進行形 / 過去完了進行形 / 未来進行形
7	現在分詞の形容詞的用法 / 過去分詞の形容詞的用法 / 分詞構文	7	助動詞 / 助動詞 + have + 過去分詞 / wouldを使った表現 / 完了不定詞
8	関係副詞 / It is ... that ~	8	仮定法過去 / 仮定法過去完了 / ifを使わない仮定法 / no matter + 疑問詞
9	if節 / 仮定法過去 / I wish ~ / as if ~	9	分詞構文(現在分詞, 過去分詞) / 完了形分詞構文 / 付帯状況のwith
10	SVO + to不定詞 / SVOC (C=動詞の原形, 現在分詞) / SV ₀ O ₂ (O ₂ =if / whether節)	10	同格のthat / 倒置 / 省略 / 強調構文

表の『MY WAY I』では1レッスンの中で、最初のセクションで中学校レベルの文法(表中の下線部)を扱い、後で高校レベルの文法事項を導入します。

例えば、表の『MY WAY I』のLesson 4では、高校レベルの「助動詞のついた受け身」を導入する前に、1セクション目で「助動詞」、2セクション目で「受け身」を扱っています。このように、1つのレッスンで、関連した文法事項を復習しながら新たな文法事項を導入するようにしています。さらに、『MY WAY II』の7課では〈助動詞 + have + 過去分詞〉、〈wouldを使った表現〉と、発展的に積み上げます。

『MY WAY I』と『II』の文法事項の配列については、題材の中身やテーマによって、最も適した文法事項の組み合わせを調整しました。例えば、仮定

法過去完了を含めるには、『II』の題材Lesson 9 Charles Chaplinのように、過去のことを中心に語る題材が適しています。また、完了進行形や未来進行形などさまざま時間の切り取り方を示すためには、Lesson 6 Space Elevator(宇宙エレベーター)のような開発の経緯と未来への夢がある科学ものが適しています。

このように、『MY WAY』は高校生の琴線に触れる題材を配置しながら、文法の習得を促します。

4. 発信のための簡潔でビジュアルな文法説明

各セクションにはGrammarのコーナーがあります。これはリーディングによるメッセージの理解を経た段階で文法的に振り返るというFocus on Formの手法に即しています。

簡潔な文法説明として、日本語で「○○という言い方」= 英語で「△□という形」という数式的な提示方法を採用しています。現在進行形ならば「~している・~しつつある」= [be動詞 + ~ing] という具合です(I, Lesson 3)。ここでは、日本語によるメッセージがあることを大切に、そのメッセージを正確に伝えるために文法(form)があることを強調しています。

ビジュアルな説明方法として、本文からの文例に色の網掛けを施して、主語や述語動詞などを示すようにしています。また、完了形など、図解を用いた説明が有効な文法項目は絵を使って概念的なイメージを伝えるようにしました。そのほかに、傍線などで文中の語句の関係を結びつけるなど、先生方が授業において板書するような情報も含めています。

発信のための文法として、ターゲット文の後の追加的な文法説明において、「使う」「表す」ということばを多く使っています。例えば、文型SVOの説明では、「目的語には名詞を使います。」という説明です。旧来の「目的語になれるのは名詞です」といった現象の説明調とは異なります。英語を解釈するためだけに文法知識を得るのではなく、学んでいる学習者がその文法事項を使ってメッセージを伝えることを想定しています。

この他に、シロクマのキャラクターによる発信があります。ここでは、生徒にとって文法理解のヒントとなるような情報や、先生方が授業でひとこと気づきを



与えるときのワンポイントを示しています。生徒が文法事項のつながりに気づいたり、発展的にとらえるためのヒントになればと願っています。

5. 対話体による文法演習

文法事項の説明につづく演習問題(TRY!)は基本的に対話体になっています。文法学習はとかく文語体が中心となりがちですが、口語体による対人的な文脈での扱いになっています。最小対の対話ですが、生徒が学んだ文法事項が話し言葉として実際に使われるという可能性に気づいてもらえるように考えています。問題自体は、平易な選択式や語順順序なので、問題を解いた後に生徒同志ペアで、英語を声に出しながら答え合わせをしたり、定着のために、音読に利用したりすることをお勧めします。

なお、各レッスンの第1セクションだけは、Reading Skillコーナーでスペースが不足しているために1文単位となっています。

6. 総合演習としての課末Exercises

セクション単位の1つの文法項目に関するドリルとは異なり、課末のExercisesでは、各セクションで学んだ文法項目を混合した条件で問題を作っています。例えば『II』のLesson 3では、第1セクションで〈It is ... to ~〉の構文と〈It is ... that ~〉構文、第2セクションでは〈S + V + it...to ~〉の形式目的語itの構文、第3セクションでは〈S + V + it...that ~〉の構文を扱っています。大問1は、この4つのタイプの文を混在させて各文の空欄にtoかthatのどちらかを入れる問題です。3つのセクションで学んだ様々な文構造の中から〈it...to ~〉、〈it...that ~〉の使い方を発見するドリルです。

7. 1文レベルの自己表現

Exercisesの中に、ほんの一行だけの自己表現を問うOne Moreがあります。大問1あるいは大問2の最後で、習熟した文法項目を使って小さな自己表現を促すものです。例として、『II』の以下のレッスンでの文を示します。

課末のOne More の例

L7 助動詞 (昨日すべきだったことは?)
I should have _____ yesterday.

L8 仮定法 (〜がなければどうする?)
Without _____, I would _____.
L9 分詞構文 (いちばん好きな料理は?)
Speaking of food, I like _____ best.

このような一文レベルの自己表現を発展させた活動が、後に続くSelf-Expressionです。こちらは、その課で学んだ文法事項も含めて、内容重視で話す方に結びつけるための活動となります。

8. 語彙文法的アプローチによる文法の整理

2レッスンが終わるごとに1ページを割いて、「文法のまとめ」というコーナーを設けています。このコーナーは、以下の表のような構成です。

	MY WAY I	MY WAY II
①英語と日本語の語順	日英による5文型	①いろいろな文型 動詞型からみる5文型
②過去分詞のいろいろ	完了相、受け身、形容詞	②itのいろいろ 指示する内容、時間・天候、形式主語
③toのいろいろ	前置詞、不定詞	③時を表す表現のいろいろ 現在・過去・進行・完了・完了進行
④~ingのいろいろ	進行相、動名詞、形容詞、分詞構文	④wh-語などのいろいろ 疑問詞、関係代名詞、関係副詞
⑤ifのいろいろ	条件、間接疑問、仮定法	⑤thatのいろいろ 指示代名詞、関係代名詞、接続詞、同格

ご覧のように「○○のいろいろ」というタイトルを多く使っています。この「いろいろ」のものは、同じ語(あるいは文法形態素)でありながら、多様な用法があることです。例えばthatは「あれ、それ」という指示代名詞、関係代名詞、SVO(that節)のthatのような接続詞、名詞の内容を説明する同格など、さまざまな用法があります。このように一つの語が様々な文法的機能を持つことは母語話者にとっては経済的なのですが、学習者にとっては文法学習が複雑になる原因です。ある程度、文法事項の理解が蓄積した段階で、一度頭の中で整理しなおすためのコーナーです。

おわりに

以上、MY WAY English Communicationシリーズにおける文法の扱いを紹介しました。細かな点も紹介しましたが、その裏には著者人の議論と思い入れがあります。生徒の中に、理解のためだけの文法ではなく、発信のための基礎力として文法が身につけてくれることを願っています。